

特集  
2021

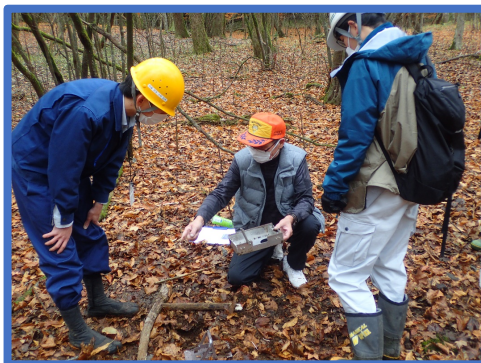
## 研修実施計画 研修ガイド

### 2020 研修レビュー

- 令和3年度の研修にあたり  
-新型コロナ渦の一年を振り返りながら-
- 令和2年度 研修を振り返って

### 研修紹介

森林計画（森林調査・計画策定）  
市町村林務担当者（基礎）  
治山（設計）2  
森林作業道作設指導者・監督者  
森林保護管理（獣害）  
チェーンソー伐木造材技術（安全指導）  
森林作業道（作設技術）  
高性能林業機械（安全指導・前期）2  
高性能林業機械作業システム（生産性）  
研修企画運営実務（先進事例学習）



## 令和3年度の研修にあたり ―新型コロナ禍の一年を振り返りながら―

森林技術総合研修所長 大政 康史

昨年度（令和2年度）は、日本中、いや、世界中が新型コロナウイルスという感染症に翻弄され続けた1年間でした。

当研修所においても、2年度の研修カリキュラムを作成した昨年1月時点で、79コース、約1,800人規模の研修を予定していましたが、3月半ばから相次いで発出された政府の対応方針も踏まえ、4月以降の研修を中止・休止するとともに、コロナ対策を盛り込みつつ研修計画を見直して（設備面での感染症対策だけでなく、各コースの定員減や研修内容の見直しも含む）、緊急事態宣言明けの7月以降、慎重に研修を再開しました。

研修再開後も、コロナに関する新しい知見が出てくる都度、随時フィードバックを行いつつ進めていきましたが、本年1月の再度の緊急事態宣言以降は、オンライン研修以外は中止として、一年間の研修を終えたところです。

ご案内のとおり、研修は大別すると、「職階別研修」（ポストごとの研修：職員向け）と「能力開発研修」（技術習得のための研修：職員及び地方公共団体等向け）とに分かれますが、当研修所においては、概ね1：4の割合で後者主体となっています。

「職階別研修」の場合は、研修生側も国の職員ですので、制約はあるものの、農林水産省内のLAN上に構築されているSkype for Businessを用いたオンライン研修を行うことが可能（研修内容も機密性2（※）までの情報を取り扱える）であり、昨年度においても、森林管理署長研修などは、研修内容を変更するなどして、オンライン実施に踏み切りました。

一方、森林・林業・木材産業に係る政策目的の実現を目指して行う「能力開発研修」は、主な研修生が地方公共団体の職員であり、参加者の所属組織もまちまちですので、ハード面からみても、直ちに全面的なオンライン化とすることは難しいところです。加えて、森林・林業関係であれば現場（森林内）での実習や演習、木材産業関係であれば工場や木造建築物の視察等が必ずといっていいほど組み込まれており、特に林業機械化センターでの研修は、ほぼ全てが現場実習中心ですので、これらの講義のオンライン化には、非常に高いハードルがあります。

そこで、「能力開発研修」においては、基本的には集合研修で行うものの、コロナ禍で上京出来ない遠方の外部講師の方など、機密性1（※）までの情報しか扱わない講義に限り、昨年度は、オンラインで実施しました。

研修（講義）のオンライン化を進めるに当たっては、これまでにない幾つもの新しい取り組みが求められます。

例えば、対面研修であれば「90/20/8の法則」で、90分に1度の休憩、研修内容の1コンテンツは20分以内、8分ごとに研修生の巻き込みを行って、研修効果を高める努力をしますが、研修生の持続力が維持し難いオンライン研修の場合は、この法則が「90/20/4の法則」となります。従って、講師及び教務指導官（ファシリテーター）には、この法則を踏まえ

たカリキュラム進行が求められます。

また、オンラインとなれば、研修での醍醐味である参加者同士のグループワーク（対話）にも制約が生じてきます。

そもそも研修というのは、Eラーニングや講義とは異なり、「説明する、伝える」ことが目的ではありません。講師は、確かに講義は行うものの、参加者自らが、受けた講義（研修）で学んだことを自分の現場に持ち帰り、それを活かして更に活躍してもらわなければならない、講師（及び研修所）はあくまでも、それを手助けする存在（機関）でしかありません。

そのためには、講師と研修生との1対1のやり取りだけでは不十分で、グループワークなど研修生同士の対話が生まれる能動的な状態を創り出すことが必要不可欠であり、これを行うことによって、「集合」して行うからこそ得られる価値のある学びの場の提供が可能となります。

対面研修であれば、このような参加者主体の状況を創り出すことは（講義時間外も含めて）簡単に出来ますが、バーチャルな集まりでは、そうはいきません。ただ、最近のオンラインシステム（例えばZoomとか）には、このようなグループワークも出来る機能も備わっているようですので、機密性（※）にも気を付けつつ、活用していくこととしています。

コロナの収束には、まだ暫く時間が掛かるようですし、延期となったオリンピック・パラリンピックも開催に向けて動いていますので、今年度（令和3年度）の研修は、年度初めは、必要最小限の職階別研修をオンラインも活用しながら実施、オリンピック期間中は未実施、パラリンピック期間中は東京（高尾）を離れて開催する研修のみ実施、ワクチン接種がある程度進むと思われる年度後半は、引き続き感染症対策を踏まえつつ実施、としています。加えて、今後一層導入が進むオンライン研修にも的確に対応出来るよう、研修所職員のスキルアップのための内部勉強会も計画しています。

森林・林業・木材産業の成長産業化と地方創生、地球温暖化への対応に向けて、全国各地からのパワーある研修生の方々のお越しを、本年度も、心よりお待ちしております。

注：機密性とは（機密性の各付け）

- ・機密性3情報：行政事務で取り扱う情報のうち、秘密文書に相当する機密性を要する情報
- ・機密性2情報：行政事務で取り扱う情報のうち、秘密文書に相当する機密性は要しないが、漏えいにより、国民の権利が侵害され又は行政事務の遂行に支障を及ぼすおそれがある情報
- ・機密性1情報：機密性2情報又は機密性3情報以外の情報



# 研修ガイド2021

## 2021年度 研修計画の特長

2コースを新設し、本所54&林業機械化センター16の70コースを計画しました。

NEW

### 森林作業システム

高効率な線形で作設された路網を活用した、低コストで高効率な作業システムに関する知識・技術を習得させ、安全性と生産性を向上する森林作業システムを実践・指導できる者を育成します。

NEW

### 林道施設メンテナンス

林道施設を点検・診断する者の技術力向上を図るため、現地実習等を通じた損傷程度・健全性の評価、対策区分の判定等の知識・技術を習得させ、施設点検の実務指導ができる者を育成します。



### 伐倒練習機による伐木実習

チェーンソーの伐木造材技術などを習得する研修において、伐倒練習機を導入します。

i

### 受講しやすくしました

- ✓ 高性能林業機械(女性担当者) 【日数】4→5日に充実
- ✓ 高性能林業機械(安全指導) 【統合】前期と後期を統合(9日)
- ✓ 木材産業・木材利用(基礎知識・木質バィオマス利用)
  - 【統合】基礎コースと木質バィオマス利用コースを統合
- ✓ 無人航空機活用技術 【日数】4→3日
- ✓ 署長、健康安全管理 【実施方法】オンライン
- ✓ 情報処理(森林情報の取得・利活用)
  - 【統合】GISコースと無人航空機コースを統合

i

### ウィズコロナ時代の研修

令和2年度は4月から研修を中止していたものの、7月以降研修を再開し、新型コロナウイルス感染症対策に真摯に取り組みながら研修を実施しました。

令和3年度もウィズコロナ時代の研修として、オンライン研修を一部導入しつつ、集合研修でしかできない「現地実習」「演習・討議」「講師との対話」「研修生同士の交流」などを追求し、研修を企画・運営します。引き続き感染防止策を講じながらの研修となり、年間計画・コースごとの受講人数・宿舍生活などが制限されご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



## 森林技術総合研修所の6つの特色

1

### 時代のニーズに応える研修

森林技術総合研修所は、森林・林業・木材産業に関する唯一の国の研修機関です。2020年には現在地に移転して50周年、名称が「森林技術総合研修所」となって25周年を迎えました。今後とも時代のニーズを見据えながらより質の高い研修を提供し、高度な技術を駆使して諸課題の解決に当たる人材を育成します。

2

### 質の高い講師



第一線で活躍する大学・企業等の人材を、講師として全国から招聘しています。

先導的な研究を行う森林総合研究所の研究者や、各施策担当の林野本庁職員が講師を務めることで、最新情勢を踏まえた講義を実現しています。

3

### 基礎習得・継続研鑽をサポート

業務経験や習熟度を目安に【基礎～実務・実践レベル】の研修コースを設置することで、若手をはじめ、継続研鑽に努める中堅・ベテラン職員からも満足度等で高い評価を得ています。

森林総合監理士への継続教育支援を推進するため、森林総合監理士フォローアップ研修を実施しています。

4

### 市町村林務行政への技術的支援

地域に最も密着した行政機関である市町村職員の育成に力を入れています。

- ♣市町村林務担当者(基礎) ♣市町村林務担当者(実務)
- ♣市町村林務担当者(地域林政アドバイザー)
- ♣森林経営管理制度の実務1・2

お勤め研修

- ♣森林環境教育 ♣山村振興・地方創生推進
- ♣木材産業・木材利用(先進事例学習) 等

5

### 集合研修



集合研修だからこそできる「現地実習、演習・グループワーク」「講師との対話」「研修生同士のコミュニケーション」をデザインし、研修の効果を高めています。

さまざまな地域・年齢の研修生同士が宿舍生活を通じて、人的ネットワークを構築しています。

6

### 宿泊施設・食堂を完備

集中して研修に取り組み、研修生同士の交流が図られるよう、宿泊室・食堂・談話室などを併設しています。

2020.3に宿泊室(本所)のエアコンを更新!

番号	研修の名称	主な内容	対象者	実施時期	森林総合監理士 フォローアップ研修	備考
1	森林計画(基礎)	森林計画制度の体系 森林計画作成(ゾーニング)演習	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね3年以下)等	9/27 ~ 10/1		
2	森林計画 (森林調査・計画策定)	最新の森林調査の技術 森林計画算定等の実務	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね2年以上、森林計画(基礎)研修修了者)等	7/12 ~ 7/16		
3	森林立地・施業技術	土壌の調査手法 立地環境と造林、森林管理の関係	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね2年以上)、森林総合監理士等	10/25 ~ 10/29	●	山梨県
4	生物多様性保全	生物多様性をめぐる動き 森林生態系と生物多様性 生物の多様性を豊かにする森林管理	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	11/8 ~ 11/12	●	山梨県
5	森林環境教育	森林環境教育の現状 森林環境教育等の課題と推進方策 森林環境教育等の企画と実践	地方公共団体、森林管理局・署等	10/25 ~ 10/29		
6	山村振興・地方創生推進	山村と都市や企業等の連携 地域資源を活用した地域づくり 企画立案実習	地方公共団体、森林管理局・署等	2/8 ~ 2/10		
7	特用林産	特用林産物に関する知識、生産技術 特用林産物を活用した地域振興の取組	地方公共団体等	11/15 ~ 11/19		山梨県
8	森林整備事業	森林整備事業の概要 リモートセンシング技術の活用等の新たな取組 先進的な造林事業体の経営と取組、継続的に利用できる路網整備	地方公共団体、森林管理局・署(初任レベル)等	12/14 ~ 12/17		
9	林道技術者育成 1	林道の設計・維持管理に関する知識・技術・現場実務 施設災害復旧に関する知識・技術	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね3年以下、通信研修(治山・林道)修了者)等	6/7 ~ 6/18		
10	林道技術者育成 2	林道の設計・維持管理に関する知識・技術・現場実務 施設災害復旧に関する知識・技術	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね3年以下、通信研修(治山・林道)修了者)等	10/4 ~ 10/15		
11	林道路網計画	林道路網の計画 林道路網計画作成の技術的課題 路網計画に関する現地検討	地方公共団体、森林管理局・署(初任レベルを除く)、 森林総合監理士等	9/13 ~ 9/17	●	
12	林道施設メンテナンス	林道施設点検に関する知識・技術 林道施設点検の現場実務	地方公共団体職員、森林管理局・署等職員(業務担当 経験年数がおおむね3年以上の者)等	6/29 ~ 7/2		
13	森林作業道 作設指導者・監督者	森林作業道の作設方法及び施工管理 路体構造調査、作設路線の評価	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	10/18 ~ 10/22	●	山梨県
14	治山(基礎)	治山事業の概要、治山事業の実務 調査・計画、設計、溪流測量、工法、点検、診断等(総合演習)	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね3年以下、通信研修(治山・林道)修了者)等	9/7 ~ 9/17		山梨県
15	治山(設計)	治山事業の概要、災害復旧 治山調査・測量・設計の実践	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね2~ 5年以下で治山(基礎)研修修了者)等	9/27 ~ 10/8		
16	治山(地すべり)	地すべり防止事業を取り巻く新たな動き、先進的知識・技術 地すべり防止技術向上の専門的技術、調査、計画、設計等の実務	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね3年以上)等	11/8 ~ 11/12		
17	保安林及び林地開発許可 1	保安林制度、林地開発許可制度について 保安林指定・解除及び指定施業要件変更の実務	地方公共団体、森林管理局・署(初任レベル)等	6/8 ~ 6/11		
18	保安林及び林地開発許可 2	保安林制度、林地開発許可制度について 保安林指定・解除及び指定施業要件変更の実務	地方公共団体、森林管理局・署(初任レベル)等	8/17 ~ 8/20		
19	森林保護管理(病虫害)	森林保護行政の現状と課題 森林病虫害の現状と防除対策	地方公共団体、森林管理局・署等	6/22 ~ 6/25		
20	森林保護管理(獣害)	野生鳥獣管理を巡る現状と課題、保護管理と森林施業 シカの痕跡と被害、くくりわな製作とわな設置・捕獲実習等	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	11/16 ~ 11/19	●	
21	森林総合監理士育成 1	林業ICT化の意義と手法、路網整備、作業システム コミュニケーションとプレゼンテーション演習	地方公共団体、森林管理局・署、林業事業者等	6/14 ~ 6/18		
22	森林総合監理士育成 2	林業ICT化の意義と手法、路網整備、作業システム コミュニケーションとプレゼンテーション演習	地方公共団体、森林管理局・署、林業事業者等	7/5 ~ 7/9		
23	林業金融実務・税制	林業金融制度の意義と実際 林業税制の意義と実際	地方公共団体	7/6 ~ 7/9		
24	森林組合指導担当基礎	森林組合法の解説、コンプライアンスの確立(指導のポイント) 森林組合の経営状況の見方、企業会計の基礎(BS、P/L)	都道府県の森林組合指導担当	6/22 ~ 6/25		
25	森林作業システム	システムの考え方や効率化手法(机上演習・現地実習を含む) 森林作業システム計画に資するICTやソフトウェア	地方公共団体職員、森林管理局・署等職員、森林総合 監理士等	10/19 ~ 10/22	●	
26	チェーンソー伐木造材技術 (初級)	伐木等の方法(伐倒練習機による伐木実習等) 健康被害を防止するための目立て、チェーンソーのメンテナンス 伐木等の業務に係る安全衛生特別教育	地方公共団体等	6/14 ~ 6/18		林業機械化 センター
27	チェーンソー伐木造材技術 (上級)	伐木等作業の特徴と作業の安全(伐倒練習機による伐木実習等) チェーンソーを用いて行う伐木等の業務従事者安全衛生教育	地方公共団体等(「伐木等業務特別教育(安衛則第3 6条第8号)」修了者)	6/7 ~ 6/11		林業機械化 センター
28	チェーンソー伐木造材技術 (安全指導)	伐木等作業の特徴と作業の安全(伐倒練習機による伐木実習等) 伐木等作業を通じた安全指導の方法等	地方公共団体、森林管理局・署等(「伐木等業務特別 教育(安衛則第36条第8号)」修了者)	6/21 ~ 6/25		林業機械化 センター
29	チェーンソー・刈払機 1	伐木等の方法(伐倒練習機による伐木実習等)、目立て チェーンソー・刈払機の構造とメンテナンス 伐木等業務の安全衛生特別教育、刈払機取扱作業者の安全衛生教育	森林管理局・署等	5/31 ~ 6/4		林業機械化 センター
30	チェーンソー・刈払機 2	伐木等の方法(伐倒練習機による伐木実習等)、目立て チェーンソー・刈払機の構造とメンテナンス 伐木等業務の安全衛生特別教育、刈払機取扱作業者の安全衛生教育	森林管理局・署等	6/28 ~ 7/2		林業機械化 センター
31	高性能林業機械 (女性担当者)	高性能林業機械の特性、安全な作業方法、普及指導のポイント 高性能林業機械の現状と効率的な作業システム事例	地方公共団体、森林管理局・署等のうち女性職員	7/5 ~ 7/9		林業機械化 センター
32	高性能林業機械(基礎) 1	高性能林業機械の特性、安全な作業方法 作業システムの基盤整備に向けた森林作業道作設事例 高性能林業機械の現状と効率的な作業システム事例	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	7/12 ~ 7/16	●	林業機械化 センター
33	高性能林業機械(基礎) 2	高性能林業機械の特性、安全な作業方法 作業システムの基盤整備に向けた森林作業道作設事例 高性能林業機械の現状と効率的な作業システム事例	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	9/13 ~ 9/17	●	林業機械化 センター
34	高性能林業機械 (林業大学校指導者)	高性能林業機械の安全かつ効率的な作業方法 高性能林業機械作業の指導ポイント、林業大学校の指導事例等	林業大学校指導者等	8/16 ~ 8/20		林業機械化 センター
35	高性能林業機械 (安全指導)	車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る安全衛生特別教育 高性能林業機械作業のリスクアセスメント、ワイヤロープの取扱い	地方公共団体(「車両系木材伐出機械等運転業務特 別教育」の講師等になり得る者)、森林管理局・署等	10/25 ~ 11/2		林業機械化 センター

番号	研修の名称	主な内容	対象者	実施時期	森林総合監理士 フォローアップ研修	備考
36	高性能林業機械 作業システム(生産性)	生産性の把握に関する基礎知識 生産性の把握、算出、評価	地方公共団体、森林管理局・署等	10/18 ~ 10/22		林業機械化 センター
37	森林作業道(基礎技術)	車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)運転技能講習 森林作業道作設に必要な知識・技術、試験研究成果	地方公共団体等(「車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)運転技能講習」修了者を除く)	9/27 ~ 10/8		林業機械化 センター
38	森林作業道(作設技術)	森林作業道作設に必要な知識及び技術 森林作業道作設指導に必要なポイント	地方公共団体(「車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)運転技能講習」修了者)、森林管理局・署等	10/11 ~ 10/15		林業機械化 センター
39	森林作業道(改修技術)	森林作業道改修に必要な知識及び技術 森林作業道改修に必要なポイント	地方公共団体(「車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)運転技能講習」修了者)、森林管理局・署等	11/8 ~ 11/12		林業機械化 センター
40	集材架線	集材架線(エンドレスタイラー式)の架設・集材・撤去作業 フイヤーロープの取扱い、集材架線の設計 機械集材装置の運転の業務に係る安全衛生特別教育	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	5/18 ~ 5/28	●	林業機械化 センター
41	林業機械体験	高性能林業機械の体験学習 林野庁行政の役割と林業技術者への期待	大学生(林業関係学会会員)等	9/8 ~ 9/10		林業機械化 センター
42	木材産業・木材利用 (基礎知識・木質バイオマス利用)	木材産業・木材利用・木質バイオマスの多様な利用の現状と課題 木材の加工・流通、木造建築・住宅資材の基礎知識	地方公共団体、森林管理局・署(初任レベル)等	12/6 ~ 12/10		
43	木材産業・木材利用 (実践・輸出戦略)	木材産業・木材利用の現状と課題、木材の加工・流通 住宅資材、技術開発、大規模木造建築、木材利用推進 木材輸出を巡る最近の情勢、輸出促進の戦略	地方公共団体、森林管理局・署(初任レベルを除く)、 森林総合監理士等	1/24 ~ 1/28	●	
44	木材産業・木材利用 (先進事例学習)	木材の加工・流通に関する動向 木材のカスケード利用 木材市場、CLT工場、バイオマス発電施設	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	8/23 ~ 8/27	●	岡山県
45	公共建築物等木材利用促進	建築基準法の解説・木造技術の最近の動き 中大規模木造の木質系材料の知識、構造設計の基礎	地方公共団体等で公共建築物等の構造設計・発注等 に係る者	11/29 ~ 12/3		
46	市町村林務担当者(基礎)	市町村担当者に必要な森林・林業の基礎知識、施策の概要 森林・林業の構想としての市町村森林整備計画の意義	市町村(初任レベル)	5/31 ~ 6/4		
47	市町村林務担当者(実務)	林地台帳制度、森林境界明確化 施策の集約化、森林経営計画の策定	市町村(初任レベルを除く)等	1/17 ~ 1/21		
48	市町村林務担当者 (地域林政アドバイザー)	市町村に係る森林・林業施策、森林計画制度、森林法令 森林経営、森林整備、森林情報の活用、アドバイザーの事例紹介	市町村林務行政のアドバイザーになり得る者	7/13 ~ 7/16		地域林政アドバイザー 活用推進要綱に定める 林野庁が実施する研修
49	森林経営管理制度の実務 1	森林経営管理法の概要、森林経営管理制度に係る市町村の事務 市町村が主体となった森林の経営管理の集積・集約事例	市町村等(地域林政アドバイザー等や都道府県職員を 含む)	5/25 ~ 5/27		
50	森林経営管理制度の実務 2	森林経営管理法の概要、森林経営管理制度に係る市町村の事務 市町村が主体となった森林の経営管理の集積・集約事例	市町村等(地域林政アドバイザー等や都道府県職員を 含む)	11/24 ~ 11/26		
51	総合職新採用	心構え・規範、森林・林業・木材産業の現状、現場実務の技術	令和2年度国家公務員総合職採用職員	4/19 ~ 4/23		
52	研修企画運営実務 (先進事例学習)	林業大学校等の企画運営 技術者育成の教育企画運営手法 学生募集・就職等学生指導実務	地方公共団体、林野庁・森林管理局・署の研修実務・ 人材育成担当、林業大学校・林業高校等	8/30 ~ 9/3		岐阜県
53	無人航空機活用技術	ドローンの関係法令、ドローンの飛行技術 ドローンの活用例、画像データ等の処理	地方公共団体、森林管理局・署(初級者レベル)等	12/14 ~ 12/16		山梨県
54	持続可能な森林経営のための 政策立案能力の強化	持続可能な森林経営の概論、森林資源モニタリング手法 森林計画の立案手法、行動計画書に基づいた提案書の作成と評価	海外の中央政府・地方自治体の森林経営・保全担当行政官	3/1 ~ 3/14		
55	署長	国有林野及び地域の森林の管理経営 内部組織の管理・外部対応能力の向上、ICT林業の実践	森林管理署長等に初めて任用された者	4/26 ~ 4/28		
56	行政能力向上(前期)	森林・林業・木材産業施策の動向、国有林の役割 コミュニケーション、プレゼンテーション、企画力等の演習	林野庁、森林管理局・署等(計画的に人事配置された 者)	5/17 ~ 5/21		
57	行政能力向上(後期)	森林・林業・木材産業施策の動向等、業務成果発表 ファシリテーション、プレゼンテーション等の演習	林野庁、森林管理局・署等 (H30、R元行政能力向上(前期)研修修了者)	1/31 ~ 2/4		
58	健康安全管理	健康安全管理体制の強化 健康安全指導能力の向上	森林管理局の安全衛生係長、局・署等の健康・安全衛生 管理担当、健康・安全管理の実務的指導担当(担当 経験が概ね2年以下)等	5/12 ~ 5/14		
59	民国連携推進	民有林業・木材産業施策の概要、民国連携の取組 生物多様性保全に配慮した管理経営、合意形成の技術	森林管理署等	1/24 ~ 1/28		
60	木材安定供給(生産・販売)	政策としての生産・販売事業、木材の加工・流通と販売 国有林材における安定供給等の取組	森林管理局・署の収穫・生産・販売担当(担当経験が 概ね3年以下)等	11/29 ~ 12/3		
61	情報処理 (森林情報の取得・利活用)	ドローンの高度な利用、森林GISの高度な利用 森林情報の効果的な利活用	森林管理局・署職員	1/17 ~ 1/21		
62	治山(ICT活用)	近年の災害発生状況(流木被害、火山噴火等)と対策 最新の調査手法、調査結果を活用した治山事業計画策定	森林管理局・署(治山(基礎)研修修了者)等	5/10 ~ 5/14		
63	通信研修(森林活用)	国有財産制度、国有林野管理、分収林制度に関する基礎知識	森林管理局・署等	6/1 ~ 2/28		
64	通信研修(治山・林道)	治山・林道に関する基礎知識	森林管理局・署等	6/1 ~ 2/28		
65	一般職(大卒程度)新採用	心構え・規範、森林・林業・木材産業の現状、現場実務の技術	令和3年度国家公務員一般職(大卒程度)採用職員			今後の研修実施体制を 勘案のうえ調整
66	一般職(大卒程度)フォローアップ	森林・林業・木材産業の現状、現場実務の技術	令和2年度国家公務員一般職(大卒程度)採用職員			今後の研修実施体制を 勘案のうえ調整
67	一般職(高卒者)新採用	心構え・規範、森林・林業・木材産業の現状、現場実務の技術	令和3年度国家公務員一般職(高卒者)採用職員			今後の研修実施体制を 勘案のうえ調整
68	一般職(高卒者)フォローアップ	森林・林業・木材産業の現状、現場実務の技術	令和2年度国家公務員一般職(高卒者)採用職員			今後の研修実施体制を 勘案のうえ調整
69	発注者綱紀保持	入札制度、談合、経済法等、リスク管理とコンプライアンス 他省庁や地方公共団体における先進的取組事例研究	森林管理局・署等の契約発注担当			今後の研修実施体制を 勘案のうえ調整
70	国有林野管理等の実務	国有林野管理・処分業務の概要及び実務 国有林野の鑑定・利活用業務の実務等	森林管理局・署(局長定官、署財産管理、計画処分、貸 付担当)等			今後の研修実施体制を 勘案のうえ調整

※研修の詳細は森林技術総合研修所WEBサイトに掲載しています。http://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyu.html



# 令和2年度研修を振り返って

## 経営研修課長 中熊 靖

令和2年度研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な計画の見直しが必要となりました。年度当初及び年度末に予定していた研修が緊急事態宣言の発出を受けて相次いで中止となったことに加え、ある程度感染が収まっていた時期に実施できた研修についても、様々な感染予防対策を講じる必要に迫られました。今回は、コロナ禍で実施した研修において、当研修所がどのような対策を講じたかについて紹介させていただきます。

### ○人数の制限

通常、2人部屋として使用する宿泊室を1人利用とし、1回の研修生数を最大50人程度に抑えました。

### ○体調管理の徹底

研修生には、事前に体温・体調等記録用紙を配布し、研修前14日間の健康状態をチェックしてもらい、受講可否の判断材料としていただきました。また、研修実施中も毎朝・夕の体温等を記録してもらい、体調不良者の早期発見に努めました。

### ○施設利用の制限

研修所内では、研修生と研修所職員との動線を分離し、人と人の接触を出来る限り避けるようにしたほか、教室では、1机に1人の着座とし、研修生同士の距離を確保しました。

特に感染の危険性が高まる食堂では、食事の提供方法を取り分け方式から個別配膳に変更したほか、テーブルにア

クリル板を設置する等の対策を講じました。

また、これらの対策については、研修所内の各所にピクトグラムによる表示を行い、感染予防対策の徹底を図りました。

### ○体調不良者への対応

発熱等の症状が出た研修生については、直ちに研修参加を取り止め、自室で待機していただきました（その後、症状の改善を待って帰宅）。自室待機中は、研修生同士での接触を避けるため、研修所職員による食事の提供を行いました。

なお、体調不良者には、必要に応じてPCR検査を受診していただきましたが、幸い陽性となった方はいらっしゃいませんでした。

### ○オンラインによる講義の実施

出張が困難な講師への対応策として、一部でオンラインによる講義を実施しました。オンライン講義の実施にあたっては、回線の混雑状況等の確認も兼ねた事前リハーサルや、研修生の集中力を維持するための休憩やアクティビティの実施が必要となるため、対面の講義と比べ準備と実施に倍近くの労力を要しましたが、今回、このような状況下でオンライン講義を実施できたことは、将来的に研修の自由度や質の向上につながるのではないかと考えます。

以上、当研修所で実施した対策の一部を紹介させていただきましたが、いかがだったでしょうか。当研修所では、次年度以降も出来る限りの対策を講じつつ、研修への参加をお待ちしております。コロナ感染症が収束するまでの間、研修生の皆様にはご不便をおかけすることになりますが、引続き感染症予防へのご協力をお願いいたします。

## 研修紹介

## 市町村林務担当者 (基礎) 研修

- 教務指導官 沖 義裕
- 研修企画官 黒岩 知博

近年、地域の森林・林業における市町村の役割が大きくなっており、そこで、森林・林業関係の部署を担当して、まだ日の浅い職員を中心に、森林・林業に関する基礎的な知識及び技術の習得を図り、林野関係の業務を円滑に遂行できる職員を育成するための研修を実施しました。

新型コロナウイルス感染予防で3密を避けるため、集団になることの多い現地見学を中止し、さらにグループ討議に代えて、教室形式の配席による個人発表と意見交換会を実施しました。このような中、研修生は真摯な姿で知識を吸収し、林野行政が直面している課題の解決に資する情報の収集に努めていました。

研修の内容は、林業の基礎知識、森林経営管理制度の仕組みや実務、森林環境譲与税、森林整備に関わる補助金の体系、森林計画制度の概要等についての講義と、伐採届や造林届の記載などの実務手法についての演習で、最後に研修で得たことや市町村に帰ってやってみたいことを発表・意見交換をして、研修を終了しました。

研修生からは、「講義を受ける前は、あいまいな部分もあったが、しっかりと理解できた」、「伐採及び造林の届け出について、根拠を持った説明が出来るように

なった」「市の職員としてどうあるべきかということを考えさせていただいた」等の意見が寄せられ、各市町村が直面する森林・林業の実態を踏まえながら、今後対峙していかなければならない現実に立ち向かっていく、前向きな姿が感じられました。

今後不安を抱える新任の市町村林務担当者の礎となるような研修を実施したいと思います。

## 研修データ

実施時期	7月6～9日（4日間）
研修生	13名（市町村担当者）



質疑応答

## 研修紹介

# 森林計画（森林調査・計画策定）研修

- 教務指導官 佐宗 等征
- 研修企画官 横山 敬吾

本研修は、森林の適正な利用及び整備に向けた森林計画制度の適切な運用を図るため、最新の森林情報、調査手法、計画量の算出等に関する知識及び技術を習得させ、実効性の高い森林計画を策定できる者を育成することを目的に実施しました。

初日は林野庁計画課森林調査技術専門官による森林計画制度の説明と森林計画策定の演習を行いました。

2日目は森林調査の手法について講義を受けた後、現地で設定した標準地内の毎木調査やピッターリッヒ法による調査の実習を行いました。

3日目も現地実習で、2種類の地上レーザースキャナを使用した林分調査を行いました。

## 研修データ

実施時期	10月12～16日（5日間）
研修生	8名（地方公共団体、林野庁）

コロナ禍により参加者が少なかったことから、研修生全員が機械を操作するための時間を十分とることができ、調査方法についてしっかりと習得できました。

4日目以降は、現地調査結果の取りまとめ、手法別の調査結果を比較するとともにGISやドローンを利用した新しい森林調査の方法についての講義を受けました。

研修生が今回の研修で持ち帰った知識と技術を活かし、各現場において最適な調査方法による効果的な調査を行い、それに基づく適切な森林計画が策定され、それが地域の森林の保全と林業の振興に多大な好影響をもたらすことを期待します。

## 研修紹介

# 治山（設計）2 研修

- 教務指導官 藪 弘道
- 研修企画官 浅浦 宏美

本研修は、治山の基礎知識を有する者等を対象に、治山事業の調査・設計を担う技術者の技術力向上を図るため、調査・測量・設計の現地実習等を通じ、自ら設計もできる治山技術者を育成することを目的として実施しました。

本研修では、治山事業を巡る最近の状況や治山対策の意義役割、災害復旧等事業の一般的基準等のほか、治山調査・設計の基礎（山腹工・溪間工）の講義、その後、溪間工の測量・設計の現地実習、成果物作成、現地検討、総合検討・発表を行いました。

現地実習、成果物作成等を行った溪間工の測量・設計では、現地で測量機器を使用することも少ない研修生が、測量に時間を要している場面もありましたが「測量方法と図面の書き方、現場の見方を学ぶことができた」「職場に帰ってからも業務に活用したい」などの意見等があ

## 研修データ

実施時期	10月19～30日（12日間）
研修生	7名（地方公共団体、林野庁）

りました。

新型コロナウイルス感染症の影響等から、研修生が7名と少数での実施となり残念ではありましたが、現地実習等では、3名、4名の2班に分かれ、それぞれ役割分担をし、熱心に取り組んでいました。現地検討、発表等においては「設計の注意点、他班の設計を知ることができた」「違う考えがあって学ばせられた」などの意見等もありました。

研修生からは「治山設計について基礎的なことから習得することができた」などの意見もあり、有意義な研修になったと考えています。また、研修生がそれぞれの職場において、治山の技術者として学んだことを治山現場で活用し、山地災害の防止等につながることを期待しているところです。



現地検討



成果物作成



発表



## 研修紹介

# 森林作業道作設指導者・ 監督者研修

- 教務指導官 新井田 和彦
- 研修企画官 牧野 みほ

本研修では、森林作業道の適切な作設に資するために必要な路体・路面の盛土の施工・締固め方法、排水方法など基礎的な技術の習得、森林作業道作設工事における確かな技術指導・管理監督ができる者の育成を目的として、地方公共団体職員等に対する森林作業道作設指導者・監督者研修を実施しています。

令和2年度の研修では、森林作業道の作設方法と施工管理、路体構造調査、作設路線の評価等についての講義を実施しました。なかでも作設方法についての意見交換では、各県ごとに施策の違いがあり、大変参考になったとの意見が得られました。

また、新設森林作業道での現地実習を通じ、作設方法と施工管理の考え方、土砂流出防止・排水対策について、研修生の理解を深めることができました。具体的には、



グループワークの様子

研修データ	
実施時期	10月19～23日（5日間）
研修生	10名（地方公共団体、林野庁）

「丸太組工の施工例を学ぶことができ参考になった」との意見や、「自然の中に道をつけることはということなのかを理解し、排水対策の重要性や崩れやすい場所など、事業体に周知させたい」との意見もあったところです。

さらに、これらの講義や実習により新しい知識を得るとともに、研修生同士でのコミュニケーションにより、互いの知見を共有することができました。特に、路体構造調査において貫入試験を行ったことは、路体の内部（土の性質等）の構造が分かり参考になったなど、新たな知見を得ることができたと考えます。

今後も、森林作業道の適切な作設に向けた取組について、地方公共団体職員等の理解を深めるための研修を行っていくこととしています。



路体構造調査（貫入試験）の現地実習

## 研修紹介

# 森林保護管理（獣害） 研修

- 教務指導官 坂之上 勘太
- 研修企画官 黒岩 知博

本研修は、シカ、クマなどの鳥獣被害対策の実施や保護管理等を適切に遂行できる者の育成を目的に、全国から県職員等14名が当研修所に集まり、5日間の日程で行われました。

1日目は、研修所で鳥獣等による森林被害の現状と対策やシカの捕獲・管理に欠かせないモニタリング調査の手法についての講義を行い、2日目はシカ、クマの生態と森林被害対策の研究成果や各県等の鳥獣対策の取組事例の紹介や意見交換を行いました。意見交換などについては、他県や国有林の取組状況を知ることができて非常に参考になったと声が寄せられ、今後の業務に役立つことを期待します。

3日目は静岡県富士市に研修会場を移し、午前中は富士山麓の国有林における被害状況とその対策としての銃による狩猟方法や安全対策等についての講義を行いました。午後は静岡森林管理署が実施した「斜めシカ柵」や「枝条柵」等の現地見学を行うとともにNPO法人森林再



講義（静岡森林管理署）



現地見学（シカ柵）



くくりわな製作（実習）

研修データ	
実施時期	11月16～20日（5日間）
研修生	14名（地方公共団体、林野庁）

生支援センターの高田講師や静岡県庁の大橋講師、静岡森林管理署の藤崎講師を交えた意見交換を実施しました。

4日目は、大橋講師と静岡県内の猟友会の指導の下、くくりわなの作成と設置の実習を行うとともに、捕獲したシカによる止めさしの実演も見学しました。研修生からは、現地でシカの止めさしなどを見ることができ大変勉強になったという感想が聞かれるなど知見が広がったようです。

5日目は研修所で、東北地方のくくりわな・囲いわなによる実施例についての講義を行いました。失敗の事例など話を聞くことができ、大変有意義な講義であったとの声が寄せられました。

今後、この研修が全国各地の実情に応じた形で現地にて活用され、研修生の皆様のご活躍していただけることを期待するとともに、講師の方々に感謝申し上げます。

## 研修紹介

# チェーンソー伐木造材 技術（安全指導）研修

- 機械化指導官 野田 晋一
- 機械化指導官 大澤 智也

林業における労働災害、とりわけ死亡災害の半数以上はチェーンソーによる伐木作業時に発生しており、残念ながら近年も大きな改善はみられていません。このような事態を背景として労働安全衛生規則の一部改正が公布され、令和元年8月1日には伐木作業及びかかり木処理の作業における危険防止対策が、また令和2年8月1日には伐木の直径等で区分されていた特別教育の統合及び時間数の追加が、それぞれ施行されました。こうして制度上は安全対策の強化が図られたわけですが、最も肝心なのは、各地域の現場で働いている現場技能者一人ひとりが、自分自身の身体と生命を守るべく、そうした制度改正の理解の上さらなる安全対策を徹底することです。そのためには、各地域において的確な安全指導ができる人材を育成することが急務の課題といえるでしょう。

このような課題に応えるべく、本研修では、伐木等作業におけるリスクアセスメントの手法を習得して、より安全確実な作業手順を確立する実習を行いました。現地において実際の危険木等を対象に、どのような危険性が潜んでいるかを洗い出し、そうした危険性の低減対策について、研修生全員で検討を行いました。日を重ねるごとに、各自の危険予知に対するアンテナが感度を増し、習得した知識を活用してコミュニケーションが活性化していく様子がひしひしと感じられました。また、最終日のディスカッションでは、現場での安全指導における疑問点

## 研修データ

実施時期	11月24～27日（4日間）
研修生	5名（地方公共団体）
実施機関	林業機械化センター

や問題点を解消するべく、講師・研修生を交えた積極的な意見交換がなされ、議論を深めることができました。

研修生からは、「様々な観点を持つことに加え、説明力の重要性、伐木等の技術、安全知識を新たに学ぶことができた」「他の研修生とともに検討することで、新しい気づきがある」といった感想が寄せられました。実習では、あくまでいくつかの事例を提示したに過ぎず、これを手掛かりに研修生自らが、地域において安全指導等の取組を実践することが何より重要であると考えます。今後、研修生の皆様が、習得した手法や考え方に加えて、新たに得られた研修生同士のネットワークも生かしながら、各地域における林業労働災害の予防啓発に一層寄与されることを期待しています。



風倒木の処理についての検討状況

## 研修紹介

# 森林作業道（作設技術） 研修

- 機械化指導官 藤井 厚
- 機械化指導官 野田 晋一

本研修は、丈夫で簡易な、壊れにくい森林作業道の整備を促進するため、車両系建設機械（ドラグショベル）による森林作業道の作設をはじめ、地形・地質等に応じた森林作業道の作設に必要な実践的技術を習得させ、現場作設者へ的確な技術指導ができる者を育成することを目的としています。

最初に研修生が出来形のイメージが持てるよう、既設の森林作業道を見学しながら、森林作業道作設指針の内容を踏まえた施工事例などを確認しました。その後、線形を決めるための踏査を行ってから、作設実習を行いました。作設の際、最初は機械操作がおぼつかなかった研修生も、指導を受けながら徐々にコツをつかんでいったようです。機械操作に慣れてからは、研修生による作設状況を、別の研修生が観察、指導するという実習を行うことにより、技術指導の方法に対する理解も進んだようです。途中、雨天に見舞われる日もありましたが、土砂で埋まった洗い越しを補修する実習に切り替えて、不順な天候にも柔軟に対応することができました。

また、最終日には各班で作設を撮影した動画を視聴させることにより、様々な気づきを共有すること

## 研修データ

実施時期	10月5～9日（5日間）
研修生	8名（地方公共団体、林野庁）
実施機関	林業機械化センター

ことができました。最後のセンター所長による講義を通して、日本の森林、林業を取り巻く情勢や、路網整備と作業システムとの関係、及び作設指導を行う際のポイントなども理解できたようです。

研修生からは、「他人の操作を見ての指導や、デモンストレーションで理解が早まった」「自分が操作し、映像で振り返ることの重要性を理解した」などの意見が寄せられ、有意義な研修になったものと考えています。

研修生の皆様には、本研修で得た技術や経験をいかして、各地域における森林作業道の技術指導で活躍されることを期待しています。



作設事例箇所の見学

## 研修紹介

# 高性能林業機械（安全指導・前期）2 研修

- 教務指導官 久保 武典
- 機械化指導官 大澤 智也

本研修は、車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る安全衛生特別教育をカリキュラムに組み込んで、地域において的確な安全指導ができる者を育成することを目的としています。林業の現場では高性能林業機械の導入が進められていますが、導入や運用にあたっては、機械の特性や現地の状況などを踏まえた安全対策を行うことが重要です。その安全対策の一つに「リスクアセスメント」があります。「リスクアセスメント」は、現場にある様々な危険の芽（リスク）を見つけ出し、災害に至る前に先手を打ってリスクの除去・低減対策を行い、さらに労働災害の減少を図るための手法です。研修ではこの「リスクアセスメント」を導入しました。

「リスクアセスメント」を行うに当たっては、「作業中にどんな災害が起こり得るのか」などのイメージを描き、まずはリスクとなる前の「危険要因」に気づく能力を身に付けることが大事です。実習では研修生による機械操作をはじめ、他の研修生が行う機械操作や退避状況などを観察し、どのような場面に「危険要因」が潜んでいるのかなどをイメージして記録する練習を行いました。最終日はこの記録などを参考に班毎に課題演習に取り組み、リスク低減対策の取りまとめ、

## 研修データ

実施時期	10月19～23日（5日間）
研修生	7名（地方公共団体、林野庁）
実施機関	林業機械化センター

発表及び意見交換でお互いの気づきを促す構成にしました。

研修生からは、「様々なリスクを想定し考えさせることが多くあった。自分も教える立場なので学んだことを今後に活かしていけると思う」「実技体験をすることで安全指導に説得力が増すと思った」などの意見が寄せられています。

なお、後期研修は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言を踏まえ中止となりましたが、研修生の皆様が、それぞれの地域において安全指導の取組に一層精進されるものと期待しています。



高性能林業機械の特性などの説明

## 研修紹介

# 高性能林業機械作業システム（生産性）研修

- 機械化指導官 大澤 智也
- 機械化指導官 永町 博満

本研修は、スイングヤードによる集材作業の実践を通じて、生産性の把握、算出、評価の一連の流れを学ぶことで、地域において安全で効率的な作業システムの選択や生産性向上に向けた指導を行うことができる者の育成を目的に実施しました。

まず、スイングヤードによる集材作業について、イメージしやすいよう架線の模型なども使いながら講義を行いました。生産性向上のために、安全が最優先されることを再認識してもらうとともに、機械の特性などを理解してもらいました。生産性の把握では、ビデオカメラを用いて、列状間伐箇所の集材作業を撮影し、生産性算出・評価に必要なデータの収集を行いました。

生産性の算出では、まず、撮影したビデオカメラの映像を見ながら、集材作業の各要素（搬器走行、荷掛け、荷外しなど）に区分し、それぞれの作業に掛かった時間を集計し、その結果から生産性を算出しました。ビデオカメラを用いて映像データを収集することで、集材作業の様子を繰り返し確認することができ、各作業に掛かった時間を細かく正確に把握することができます。その結果、どのような作業に時間が掛かっていたのか明らかになります。

生産性の評価では、作業ごとの所要時間から、どういった作業が生産性に影響しているのかを検討するとともに、生産性の算定式を作成し、その算定式を基に生産性と集材距離との関係を示すグラフを作成するな

## 研修データ

実施時期	11月9～13日（5日間）
研修生	5名（地方公共団体）
実施機関	林業機械化センター

ど、生産性を目に見える形で評価する方法について実践しました。

さらに、本研修では、外部講師として（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業工学研究領域 田中良明チーム長（森林作業担当）をお招きし、生産性の評価やコスト、実習では触れなかった車両系の作業システムの生産性について講義をしていただきました。

研修生からは、「実践中心の研修が今後の事業体の指導に参考となった」「生産性の把握や調査が分かったので今後の普及に活かしていきたい」といった意見が寄せられました。

今回の研修で得た知識等を生かしていただき、地域の林業のさらなる発展につなげていただけることを希望しています。



スイングヤード集材作業の生産性把握

## 研修紹介

# 研修企画運営実務 (先進事例学習) 研修

- 教務指導官 栗山 喬行
- 研修企画官 館野 剛

近年、就業前の若手林業者の教育・研修機関として林業大学校等を新たに整備する動きが広がっており、全国各地で学校や研修機関の設立が相次いでいます。本研修は、林業大学校の先進機関と言える岐阜県立森林文化アカデミーにおいて、林業大学校における教育企画運営などの人材育成の先進事例を学習し、各地域の学校や研修機関等で人材育成の実務を遂行できる者を育成することを目的として、林業大学校の関係者や地方公共団体等の人材育成担当者等を対象に実施しています。

研修内容は、森林文化アカデミーにおける専修教育（通年教育）や短期研修の企画・運営、学生募集・就職等学生指導に関する説明、授業見学、施設見学のほか、参加した研修生から各林業大学校・研修機関・地域における人材育成の課題を発表してもらい、意見交換を行うなど、林業技術者育成に関する幅広い情報が得られるよう工夫しています。

特に令和2年度の研修では、新たな取組として、専修学校における林業技術者養成プログラムの開発に関する研究を行っている鹿児島大学の枚田邦宏教授をお招きし、林業大学校に求められる人材育成のあり方等について講義をしていただきました。また、森林文化

## 研修データ

実施時期	10月26～30日（5日間）
研修生	13名（林業大学校関係者、地方公共団体、林野庁）

アカデミーの卒業生2名をお招きし、森林文化アカデミーで学んで良かったと思うことや専修教育を実施する側へのメッセージ等を語ってもらい、意見交換を行いました。

このほか、森林文化アカデミーが実施している市町村連携や、敷地内に岐阜県の森林環境教育の拠点として整備した「morinos」での取組の紹介など、様々な関連情報の提供を受けました。

令和3年度の研修においても、参加した方々が、地域の森林・林業関係の技術者育成の取組に資する情報を少しでも多く得られるよう、研修内容に工夫を凝らしていきたいと考えています。



建屋を支えるW形に組まれた100年生のヒノキ丸太

## 人事異動 令和3年4月1日付

転入者		転出者	
首席教務指導官	栗山 喬行	林野庁林政部林政課監査官（首席教務指導官）	田口 秀実
技術研修課長	田中 直哉	林野庁森林整備部森林利用課課長補佐（技術研修課長）	和泉 慎太郎
教務指導官	山田 徹	内閣府迎賓館総務課営繕専門官（教務指導官）	沖 義裕
総務課 庶務係	宮里 有紀	林野庁森林整備部治山課災害復興指導官（研修企画官）	田畑 良輝
技術研修課 研修企画官	田村 忠浩	林野庁国有林野部業務課鑑定調整官（研修企画官）	堂園 理一郎
林業機械化センター 機械化指導官	加藤 邦彦	中部森林管理局計画保全部計画課経営計画官（庶務係長）	川口 大介
機械化指導官	清水 直喜	関東森林管理局吾妻森林管理署主任森林整備官（機械化指導官）	藤井 厚
機械化研修係	友 一平	関東森林管理局伊豆森林管理署首席森林官（機械化指導官）	永町 博満
		近畿中国森林管理局福井森林管理署森林官（機械化指導官）	峰村 裕一

FTI News | No. 93

林野庁 森林技術総合研修所

〒193-8570 東京都八王子市廿里町(とどりまち)1833-94

TEL | 042-661-7121(総務課) / -3560(教務指導官室)

-3565(技術研修課) / -3567(経営研修課)

URL | [https://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyuuu\\_zyo.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyuuu_zyo.html)

林業機械化センター

〒378-0312 群馬県沼田市利根町根利1445

TEL | 0278-54-8332

URL | [https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikai/kikai\\_ka\\_senta.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikai/kikai_ka_senta.html)